

合格例

(試験官に対して)

外国人試験官： 女性 (アメリカ人、35歳前後と思われる。ジーパンで髪は後ろでまとめたようなラフな格好だったような気がする)。声は小さかったが、比較的ゆっくりとした良く分かる発音で質問した。余り笑顔が無かったが、特に冷たいというような感じでは無かった。

通訳ガイド： 男性 (白髪で60歳過ぎと思われる)。最初に少し質問し、私がかうまく答えられないと見ると答えを誘導するように、親切ににこやかに対応して戴いた。面接会場の雰囲気を読み取り、この方のお陰で最初に気分が楽になった。

人物考査担当試験官： 若い男性。30歳位。質問は無し。私の答えに肯いたり、少し笑みが漏れたりしていた。

(面接試験の実際)

私の受付時間は9:30だったが、会場の東京国際フォーラムの受付 (G602会議室前) には9:00少し前に到着。2番目であった。受付前の長椅子で待っていると9:15頃受付が始まり、受付後控え室のG602で待っていた。だんだん人が増えてきた。富士ACで顔見知りの人と目が合ったので、お互いの検討を祈り手と目で合図。

9:50頃受験番号順に5、6名単位で呼び出しがあり、外に出ると呼び出した係の人に名前を再確認されて、面接会場 (G604) の入り口前に並べられた椅子で待機するように言われた。10:00になると先ず隣の会場へ一人は行っていった、まもなく私が呼ばれて、係のひとがドアを開け、中に通された。

私が座るテーブルと椅子2個が並べて有り、右側に荷物を置き、左側に座った。2.5~3m位離れて、3名の試験官が並んでいた。左からTG、GO、NSであった。私が座った真っ正面はGOであり、今までテキストに書いてあったNSが真ん中という感じではなく、少し面食らった。

I: Good morning. It's nice cool weather, isn't it?

TG: Something is coming.

I: (TG が上の方を向いて言っているの、意味が分からず) I beg your pardon?

TG: Something is coming. (さらに分からずキョトンとしていると) Something is coming from the south.

I: Yes, Typhoon is coming.

TG: Do you think it will come near Tokyo?

I: I am afraid it might come.

NS: (もう少し前置きがあったような気がしたが) A lot of middle-aged and elderly people began walking. Why do they walk?

I: When we are young, we do jogging and harder sports. But, when we get older, the jogging gives stress to our hearts. So, walking is better as our exercise and it's lot cheaper.

TG: (自分の万歩計を出して) What is this?

I: (最初はよく分からず...) pedometer (声が小さかったか)

TG: Pedometer! (とアクセントを強調して発音)

TG: When you retire, do you enjoy walking?

I: When I retire, I have to spend cheaper life. I will enjoy walking.

(もっと他の答えを期待していたのではないか?)

NS: Japanese people often enjoy drinking with their colleges and at the end they crap

- their hands together. What is that for?
- I: I think that is for celebrating happy drinking and harmonious mood of the group. In Shintoism, we clap hands at the shrine to wake up deities. So, it is a custom to clap our hands to celebrate something.
- NS: (明確には理解できていなかったが)So, why is it related with Shintoism?
- I: Because Japan is a group-oriented society, we value harmony. At companies we work together in a group like a family. So, we celebrate our happy drinking at the end of our drinking party.
(何か質問の中身を良く理解できていなかったようで、もっと締めとか祭りとか言うべきであったか?)
- NS: We haven't much time left. Next question is about Kaitenzushi. Would you explain to foreigners what it is like?
- I: Kaitenzushi is a cheaper sushi restaurant. At Kaitenzushi, there is a conveyer belt circulating. The chefs are in the middle and customers sit outside of the circle. On the conveyer shushi place is put. You can take and eat any sushi you would like. If you cannot find sushi you want to eat, you can ask the chefs something different.
- NS: Does it --- value for the price?
- I: Yes, it is cheaper.
- NS: Is it cheaper than normal sushi restaurant? How much does it cost?
- I: Some plate cost ¥100. Some other cost ¥200.
- NS: Oh, it's cheaper.
- NS: (これで終わりですと言ったような気がする)
- I: Thank you. I enjoyed meeting with you. My mouth dried.

(反省点、今後の課題、後輩へのアドバイス)

今振り返ると、質問の意味を良く理解していないで何かしゃべっているようで、話にまとまりがない。最初の受験者がこれでは試験官も苦勞しただろうと思う。内容の出来不出来を抜きにすると、全体としてはTGが良くリードしてくれたので、がちがちのムードにならず、比較的会話が出来たと思う。私自身は、以前は仕事で英語が必要な場面もあったが、今は英語とは100%関係のない仕事をしている。1次試験の合格通知を受け取って、一番心配したのが口から英語が出てくるかということであった。富士ACの2次対策コースに80%以上毎日通って、講師陣に当てられて話をし、他人の発言を参考にし、テキストや市販本の説明を勉強した結果、とにかく面接試験で口から英語が出てきたことは大きな進歩と感じている。結果がどうなるか分かりませんが、この1ヶ月はとにかく出来るだけ2次試験のための勉強に時間を割きました。知念先生の話の通り、義理を欠くことも必要、毎日声を出して30分は英文を読む、英語を毎日聞く(市販本付属の日本事象についてのCDを毎日聞いた)を実行しました。面接はたった5分間です。この時間内でいかに表現するかが勝負です。とにかく事前準備の後は度胸しかありませんでした。先生方、ご指導ありがとうございました。

以上